

子どもと支援教育を支える  
『個別の教育支援計画』



エーツー  
A<sup>2</sup> 『個別の教育支援計画』 ツール  
～様式紹介／カリキュラムマネジメント等への活用例～

大阪府立住之江支援学校  
リーディングスタッフ 岩山 カイナ

# メニュー

1. 「個別の教育支援計画」の役割と課題
2. A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツールの特色
3. A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツールの操作方法
4. 「個別の教育支援計画」以外の活用
  - ① 地域の学校支援（個別相談）
  - ② カリキュラムマネジメントとしての活用

研修資料：ダウンロードできます

# 1. 「個別の教育支援計画」の役割と課題

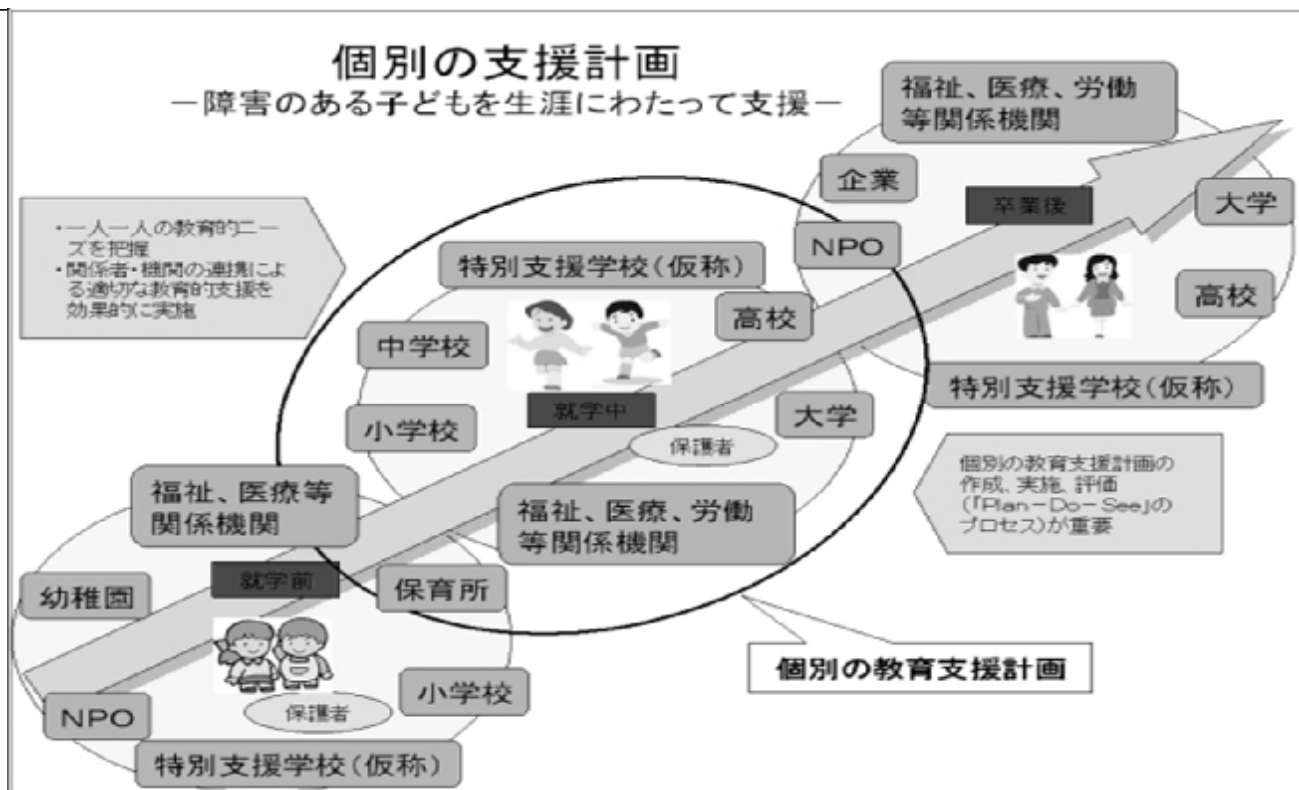
## 「個別の教育支援計画」

障害のある子ども一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えのもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的とする。

また、この教育的支援は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠である。

文部科学省HP

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054/shiryo/attach/1361230.htm)



出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
「個別の教育支援計画」の策定に関する実践的研究 17項（平成18年）

# 「個別の教育支援計画」は 特別支援教育・インクルーシブ教育の鍵

## アメリカのIEP (Individual Education Plan)

アメリカでは、子どものニーズに応じて、どのような配慮や支援を受けることができるのか、保護者が学校と契約を結びます。内容は、支援内容や方法のみでなく、カリキュラムの調整も含まれます。

子どもの適切な教育・支援を受ける権利を守るために、**IEP**の内容が適切に実行されているかを監視する行政機関が、教育機関とは別に設置されています。

また、**IEP**は、連動する客観的なアセスメントに基づくものである必要があるとされています。



※インクルーシブ教育の場面では、より個々のニーズに注目しなければ、適切な教育を受けることができません

【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

# Assessment A<sup>2</sup> Accommodation 『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.2 新任からできる実態把握 ぜひご活用ください

支援計画の作成で、目標設定や評価に悩んでいませんか？「A<sup>2</sup> 個別の教育支援計画」は現場の先生方をお助けする便利ツールです。実態把握（新学習指導要領に対応した発達アセスメント）から合理的配慮を導き出すと共に、子どもの経年変化を記録することができます。

## ① 支援のための「発達アセスメントツール」としての活用

発達段階を選び、クリックするだけ！

新学習指導要領の段階分けにも活用可能

「得意」と「課題」をその場で視覚化！

## ② 「合理的配慮のアイデアリスト」を参考資料として収録

実態把握レーターや子どもの課題に応じて、適切な配慮をらくらく検索！

※ 様式は、幼保・小・中に対応しています。

- ③ 「校内/他機関連携」を強化
- ④ 「実態～目標～支援～評価」の関連性を深化
- ⑤ 3～18歳までの「経年変化」を把握
- ⑥ 「愛着・情動面の支援二ーズ」に対応



エーラー

# A<sup>2</sup> (Assessment and Accommodations)

## 様式を通じた課題解決と支援教育の充実

### 大阪府教育委員会 支援教育地域支援整備事業

平成30年度～令和元年度

### 大阪市ブロック・様式検討小委員会

エーツー

# A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』 ツール開発の背景

## 地域支援先の校園で見られる「個別の教育支援計画」の課題

(1) 作成する教員の力量が内容に大きく影響

例) 実態把握の根拠があいまい

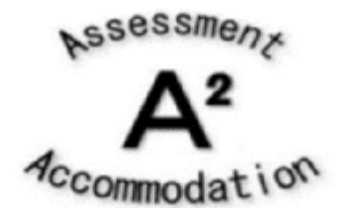
「目標」「支援方法」「評価」の妥当性に課題

(2) 経験の少ない教員が支援学級担当を担うことへの  
支援の必要性

(3) 情動に課題のある幼児児童生徒への指導・支援に  
関する相談の多さ

## 2. A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツールの特色

エーツー  
**A<sup>2</sup> (Assessment and Accommodations)**



経験年数が少なくても作成しやすく、活用できる

- (1) 正しい実態把握ができて、学習指導要領の段階がわかる
- (2) 支援方法を考えるヒントがある
- (3) 合理的配慮を考えるヒントがある
- (4) 入力データを活用し指導・支援の経年変化を確認できる

エーツ-

2つの  
メイン  
機能

# A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

- ① 【支援のための発達アセスメント】
  - ・ 学習指導要領の段階、自立活動の区分
- ② 【合理的配慮アイディアリスト】
  - ・ **ICF**の視点の重視（社会参加への配慮）
- ③ 幼稚園・保育所／小学校（特別支援学校 小学部）／  
中学・高校（特別支援学校 中学部・高等部）多校種対応
- ④ 指導・支援の評価を経年で確認（**3～18歳**まで）
- ⑤ **RTI**モデルの活用と他機関連携
- ⑥ 情動面（行動/感情/情緒）の支援ニーズ考慮



日米の大学教授の  
協力の基に作成

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ



# ① 発達の観点と学習指導要領に対応した 【支援のための発達アセスメント】

- ・ 学習指導要領の段階判定、自立活動の区分の記載

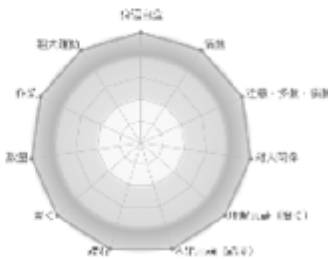
## A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】（3種類）

A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】～5歳程度の発達段階用

【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 小学部3段階

※ このための開発は、発達特性に応じた  
評価のため、あくまで目安です



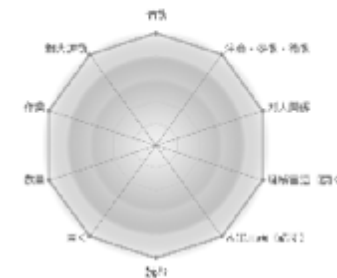
0～5歳程度の知的発達

A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】小学生程度の発達段階用

【特別支援学校 学習指導要領】

- 小学部1段階
- 小学部2段階
- 小学部3段階
- 小学部4段階

※ このための開発は、発達特性に応じた  
評価のため、あくまで目安です



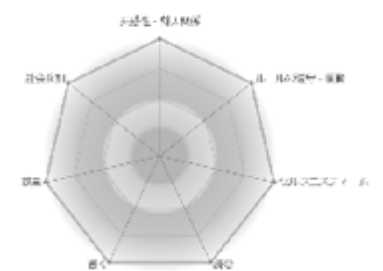
小学生程度の知的発達

A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】中学生・高校生 知的発達の遅れがない生徒用

【特別支援学校 学習指導要領】

- 中学部1段階
- 中学部2段階
- 高校部1段階
- 高校部2段階

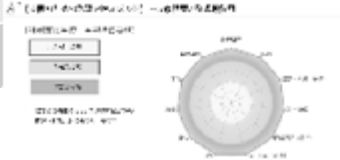
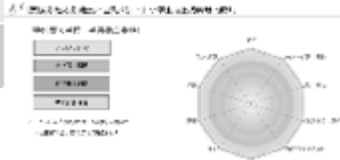
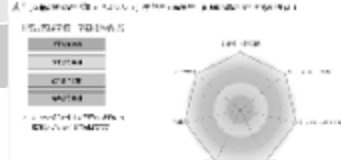
※ このための開発は、発達特性に応じた  
評価のため、あくまで目安です



10歳以上の知的発達  
(知的発達の遅れがない)

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

# A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】領域

就学前の知的発達段階 (0～5歳程度の項目で構成)	小学生程度の知的発達段階 (3～10歳程度の項目で構成)	中学生以上の知的発達に遅れが見られない生徒 (10歳以上の認知発達年齢対象)
情動	情動	共感性・対人関係
注意・多動・衝動性	注意・多動・衝動性	衝動性・ルールの遵守
対人関係	対人関係	セルフエスティーム
理解言語 (聞く)	理解言語 (聞く)	読む
表出言語 (話す)	表出言語 (話す)	書く
読む	読む	数量
書く	書く	社会参加 (教育活動での集団参加含む)
数量	数量	
作業 (微細運動)	作業 (微細運動)	
粗大運動	粗大運動	
身辺自立 		

# ② ICFの視点と【合理的配慮アイディアリスト】

## 【合理的配慮などの支援方法アイディアリスト①】

主な発達課題の分け方	学習意欲、授業コンテンツの理解、授業参加、活動参加	授業参加が低い、授業が理解しにくい、授業中に行動する	授業中の発言の困難、対人関係が良好でない	読解能力、算数、このほかの教科の学習困難	読解困難	読解、算数、理科の学習の困難の克服	読解、算数、理科の学習の困難の克服	読解、算数、理科の学習の困難の克服	
	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	大まかい項目	
	情緒（感情・行動）	注意・多動	対人関係	理解言語（聞く）	表出言語（話す）	読むこと	書くこと	数量	運動・作業
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、集中力が持続しない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。
↓ コミュニケーション 学習 等々	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、集中力が持続しない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、集中力が持続しない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。	授業中や休み時間、レクリエーションの場などで、仲間と関わり、楽しむことができない。

Aさん：円滑な集団参加ができない

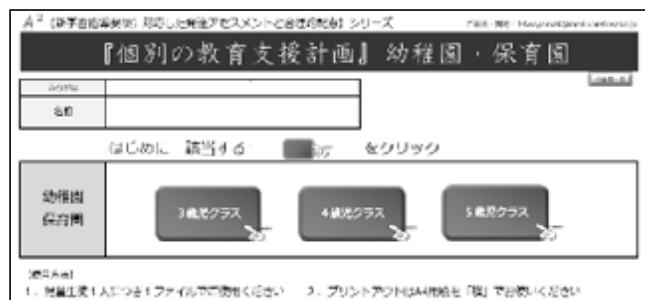
支援を要する領域と連動、支援方法・合理的配慮のアイディアを検討



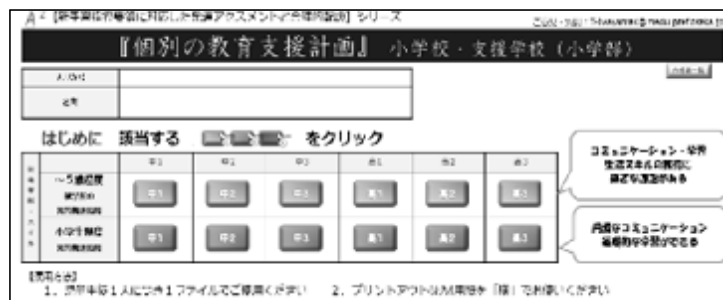
### ③ 多校種に対応

- 幼稚園・保育所
- 小学校（小学部）
- 中学・高校（中学部・高等部）

幼稚園・保育園



小学校・特別支援学校（小学部）



中学・高校  
特別支援学校（中学・高等部）



# ④ 指導・支援の評価を経年で確認 (3~18歳)

幼稚園・保育園

小学校  
特別支援学校 (小学部)

中学・高校  
特別支援学校  
(中学・高等部)

得意よりになったこと、その経年変化 [様式1]

	1年	2年	3年	指導者特定欄
【言語的】 言語・行動 コミュニケーション				
【知的】 算数・理科 読解・記述 算数・算術				
【社会的】 生活習慣 社会生活 コミュニケーション				
その他 特定事項				

得意よりになったこと、その経年変化 [様式2]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6
【言語的】 言語・行動 コミュニケーション						
【知的】 算数・理科 読解・記述 算数・算術						
【社会的】 生活習慣 社会生活 コミュニケーション						
その他 特定事項						
小学校/特別支援学校 指導者						

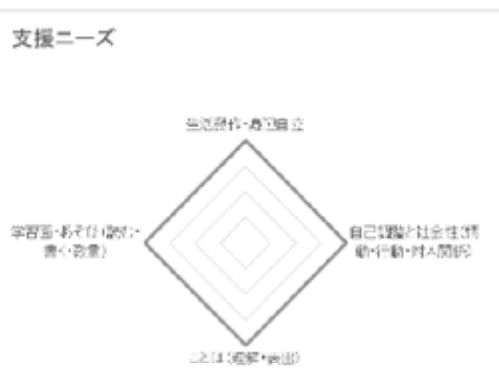
得意よりになったこと、その経年変化 [様式3]

	中1	中2	中3	高1	高2	高3	調査・評価実施年度
【言語的】 言語・行動 コミュニケーション							
【知的】 算数・理科 読解・記述 算数・算術							
【社会的】 生活習慣 社会生活 コミュニケーション							
その他 特定事項							
指導者/特別支援学校 指導者							

# ⑤ RTIモデルの活用と他機関連携

支援ニーズ

		Ⅲ段階	Ⅱ段階	Ⅰ段階	
		常に個別の 配慮や支援が 必要	部分的に 個別支援が 必要	異種団体へ 向け小さな 配慮ができる	支援も必要とし ない
支援 ニーズ の レ ベル	① 生活動作・身辺自立	○	○	○	★
	② 自己調整と社会性(行動・情緒・対人関係)	○	○	○	★
	③ ことば(理解・表出)	○	○	○	★
	④ 学習面(読む・書く・数算など)・あそび	○	○	○	★

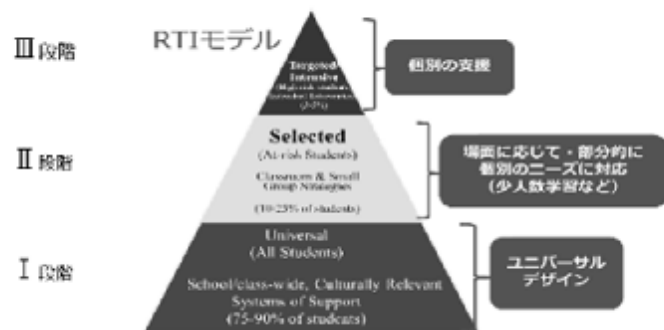


## RTIモデル

I 段階：ユニバーサルデザイン  
全体へ向けた小さな配慮

II 段階：状況に応じて、部分的に  
個別の支援が必要

III 段階：常に個別の支援や配慮・  
対応が必要  
(常に援助を要する)



校内/他機関 連携シート 戻る

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

# ⑥ 情動（行動/感情/情緒）面のニーズを考慮

主な関連項目の色分け	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的に行動する	社会的やり ・対人トラブル
	大きい画面	集団参加	大きい画面
	情動（感情・行動）	注意・多動	対人
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間 を日々のルーティンの中に組み込む (②-1-1)	グループで活動する時のルールを明確に する (②-1-1)	教室の騒がしさを避け、 静かに行動する機会を増やす (②-1-1)
↓ コミュニケーション 学習 など	対人関係や仲間とコミュニケーションを とるための権限として、ソーシャルスキ ルの権限を行う (②-1-1)	安定できる座席を工夫する (②-1-1)	自己刺激行動によっ て起こる行動が見え ない場合や集中を促す ための権限アイテムを 活用する (②-1-1)
	不適切な興奮を動員させないようにする ために、不適切な興奮に対しては適切な 対応をする (②-1-1)	感情状態が安定しているか気づけるよう、自 分でチェックできるようにする（チェッ ク票の活用等） (②-1-1)	初めは1対1の権限 からグループ活動に移行し ていく (②-1-1)

主な課題	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的な行動・片付けに課題	社会的
1. 学校生活全般 心理面 集団参加 対人関係	集団への様々な参加方法を認める。（教室の中 に入ることにこだわらずに） (②-1-1)	教室や注意すべきポイントが明確に伝わるよう に、やり方や指示を目の前で提示する、やり方 の見本をみせる (②-1-1)	各々の活動 を明示する (②-1-1)
↓ コミュニケーション 学習 など	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団 に参加できるようにする (②-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (②-1-1)	教室の騒が しさを避け て行動する (②-1-1)
	児童・生徒にわかりやすい、具体的に明確な活 動のルールを作る (②-1-1)	安定できる座席を工夫する (②-1-1)	自己刺激行 動が見え ないため に活用する
	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を 日々のルーティンの中に組み込む	教室の騒がしさを避け、休憩をしたいときに 行ける静かなスペースを設ける	初めは1対 1活動に移行

情動面に課題のある対応が難しい子ども → 事前の合理的配慮が要！

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ



エーツ  
A<sup>2</sup>

『個別の教育支援計画』ツール

# 操作方法



# エーツー A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

まずは、このページからはじめます

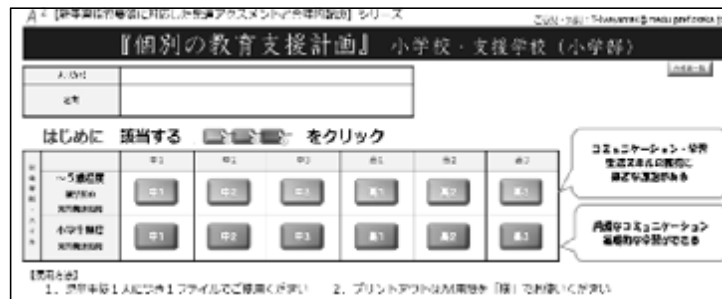
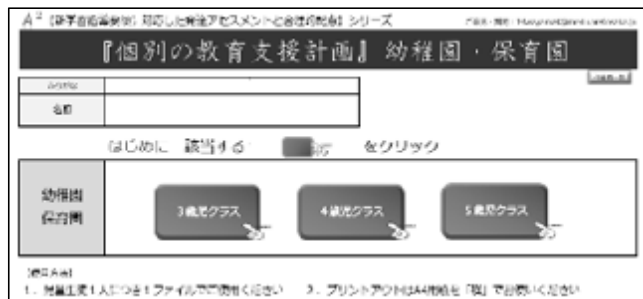


1. 名前を記入（様式全体に反映される）
2. 所属学年（横軸）、およびその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

幼稚園・保育園

小学校・特別支援学校（小学部）

中学・高校  
特別支援学校（中学・高等部）



エーツ-

# A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』 ツール 特徴

## まずは、このページからはじめます

ページ移動は  
ボタンクリックで！

1. 名前を記入（様式全体に反映される）
2. 所属学年（横軸）、おおよその発達年齢（縦軸）で、該当ボタンをクリック

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ ご意見・ご質問：T-IwayamaK@medu.pref.osaka.jp

### 『個別の教育支援計画』 中学校／中学部・高等学校／高等部

ふりがな	<input type="text"/>	ひらがな入力：文字入力→Escキー→Enter	編集一覧
名前	<input type="text"/>	名前を入力⇒全ての様式に反	

はじめに 該当する    をクリック

選択  
印刷  
↓

		中1	中2	中3	高1	高2	高3
発達 年齢・ スキル	～5歳程度 就学前の知的発達段階	<input type="button" value="中1"/>	<input type="button" value="中2"/>	<input type="button" value="中3"/>	<input type="button" value="高1"/>	<input type="button" value="高2"/>	<input type="button" value="高3"/>
	小学生程度 知的発達段階	<input type="button" value="中1"/>	<input type="button" value="中2"/>	<input type="button" value="中3"/>	<input type="button" value="高1"/>	<input type="button" value="高2"/>	<input type="button" value="高3"/>
	中学生以上 知的発達・運動発達の 遅れがない生徒	<input type="button" value="中1"/>	<input type="button" value="中2"/>	<input type="button" value="中3"/>	<input type="button" value="高1"/>	<input type="button" value="高2"/>	<input type="button" value="高3"/>

コミュニケーション・学習  
生活スキルの獲得に  
顕著な課題がある

円滑なコミュニケーション  
基礎的な学習ができる

全般的な知的発達・  
運動発達に関する  
課題は見られない

発達年齢の選択に迷う場合は、小学生程度知的発達段階をお選びください

# A<sup>2</sup> トップページ

ここをクリック

A<sup>2</sup> 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ  
『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ  
発達年齢選択に戻る

まちがったら  
ここから戻る

【様式1】表紙

**手順1 フェイスシート**

2年目以降は  
変更箇所のみ訂正

【様式2】

**手順2 実態・目標・支援**

様式3に  
自動で反映

【様式3】

**手順3 評価・経年変化**

※卒業時  
記入箇所あり

「支援のための発達アセスメント」  
【様式2】から入れ直す

【特別支援学校 学習指導要領】

小学校1年級  
小学校2年級  
小学校3年級  
小学校4年級

発達年齢選択

【付録】支援・ケース会議等用

校内/他機関 連携シート

必要に応じて活用

様式2 参考資料

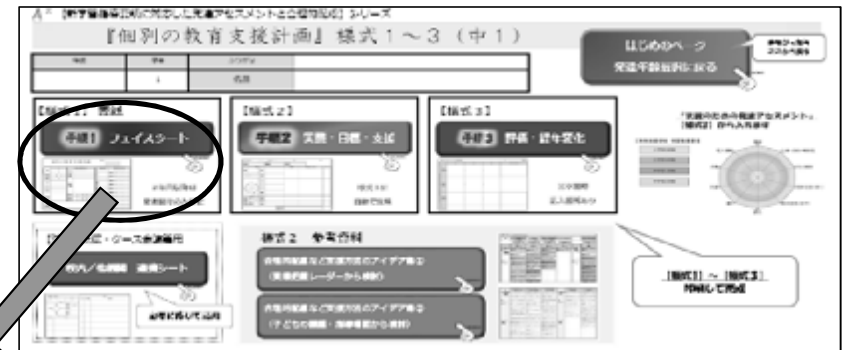
合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(実態把握レーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの課題・指導場面から検討)

【様式1】～【様式3】  
印刷して完成

# A<sup>2</sup>【様式1】フェイスシート

1. フェイスシートに記入
2. 記入が済んだら、  
該当トップページへ戻る



### 個別の教育支援計画

担当教員 \_\_\_\_\_

名称		診断名・障害等の名称				障害・実状・		療育・相談・支援内容					
生年月日 (西暦)	年 月 日	診断名				診断結果				療育・相談 状況			
学校名		種類名 (アレル ギー・眼疾 等)											
住所													
連絡先													
保護者													
支援機関		療育手帳	年	月	日	交付							
		療育手帳	年	月	日	交付							
		療育手帳	年	月	日	交付							
主習誌 (特記事項)													

### トップページへ戻る

戻る

発達年齢・学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3
～5歳 (就学前の発達 段階)	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 知的発達段階	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 知的発達 段階が不明	中1	中2	中3	高1	高2	高3

# A<sup>2</sup> 【様式2】 実態・目標・支援・評価

ここをクリック

A<sup>2</sup> 【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ  
『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ  
発達年齢選択に戻る

まちがったら  
ここから戻る

【様式1】表紙

**手順1** フェイスシート



2年目以降は  
変更箇所のみ訂正

【様式2】

**手順2** 実態・目標・支援



様式3に  
自動で反映

【様式3】

**手順3** 評価・経年変化



※卒業時  
記入箇所あり

「支援のための発達アセスメント」  
【様式2】から入れませう



【付録】支援・ケース会議等用

校内/他機関 連携シート



必要に応じて活用

様式2 参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(実態把握リーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの課題・指導場面から検討)



【様式1】～【様式3】  
印刷して完成

# A<sup>2</sup>【様式2】実態・目標・支援・評価

【様式2】実態把握～目標・支援方法～評価

目標・実態把握・評価表、子どもに対して必要内容の付録付  
(目標にしない項目は省略)

トップページ

全学年別実態把握方法のページ一覧  
児童発達支援センターのページ

全学年別実態把握方法のページ一覧  
子どもの発達・支援センターのページ

実態・目標・支援方法 中学部 1年 (様式2)

本人(保護者)の氏名		所属学年/学年数/学年		性別
氏名		学年		性別
実態把握の 記録	実態把握 【内】学習と 社会性 認知・行動 対人関係	目標設定	実態把握	評価
児童のための発達アセスメント				
アセスメント シート	【この子】 認知発達・ 言語発達			
【学習】 読み・書き 算数				
アセスメントシートが得意なからわかる 領域・項目(チャートののりこ)				
領域の 得意な項目 -得意な-	【生活動作】 認知・作業 身体発達			
得意な 領域の項目	その他 認知・動作			
写真に添付したい 画像・録音のこと		写真等に添付できない 画像・録音の事立て		

ここをチェック!

1. 実態→目標→支援方法がつながっているか
2. 評価にどんな時に、どんな状況でという内容が入っているか
3. 目標は子どもの実態に合った、達成できそうな内容か
4. 支援方法は具体的に明確か

どのような状況セッティングの中でのことなのか  
(例)  
-小さいグループの中で...  
-手帳を見ながら...  
-指導者と1対一の場面で...  
-事前に感覚遊びをして...  
-応答することができた後...

トップページ

【様式3】

NEXT→  
評価・結果表

# A<sup>2</sup>【様式2】実態把握を記入

1. ①～③を記入（保護者・検査等の情報参考）
2. 支援のための発達アセスメントへ

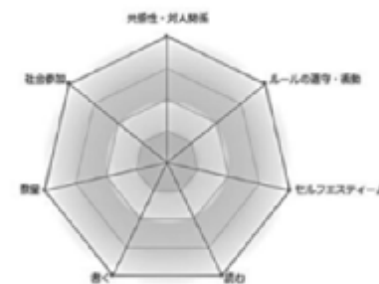
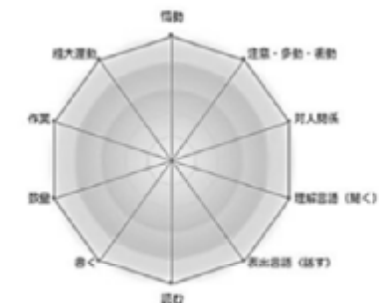
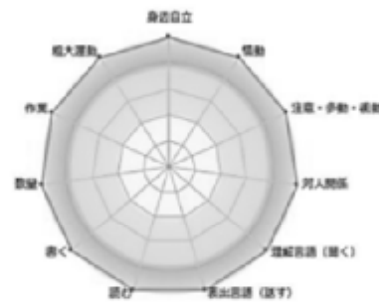
実態・目標・支援方法		担当	
本人/保護者の願い		地域生活 社会参加の 様子・課題	日付
			日付
実態把握		書き方例	長期目標
精検査の記録	[自己調整と 社会性] 情動・行動 対人関係		
支援のための発達アセスメント			
シート作成	[ことば] 理解言語・ 表出言語		

ここをクリック





## A2『個別の教育支援計画』 アセスメントの用語説明



### 身辺自立

トイレ・着替え・食事など、身辺処理  
情動

感情・行動・情緒・集団参加

### 注意・多動・衝動

注意のコントロール・多動性・衝動性

### 対人関係

社会性・共感性・集団学習

### 理解言語 (聞く)

集団場面の中で聞く力・言葉の理解

### 表出言語 (話す)

意思を伝えるスキル・集団場面での表出

### 読む

文字やシンボルからの理解

### 書く

書字・漢字

### 数量

算数・量的な知識と理解

### 作業

微細運動・手と目の協応・手の巧緻性

### 粗大運動

身体全体を使った動き・協調運動



# A<sup>2</sup>「支援のための発達アセスメント」やり方

支援のための発達アセスメント（～5歳程度の発達段階用）

【様式2：発達（自由）用】 戻る

※この質問項目には詳細な情報が表示されません。

個人情報が漏れる恐れがあります。必ずしも必要ではありません。

発達		発達	発達	発達	発達	
身体	1	3歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	2	2歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	3	1歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	4	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	5	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	6	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	7	歩行が安定している。	●	○	○	発達

※この質問項目には詳細な情報が表示されません。

発達		発達	発達	発達	発達	
情緒	1	3歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	2	2歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	3	1歳以上で歩行が安定している。	●	○	○	発達
	4	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	5	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	6	歩行が安定している。	●	○	○	発達
	7	歩行が安定している。	●	○	○	発達

質問項目をクリック  
→自動で様式に反映

【様式2】自動反映

発達・情緒・支援方法		小学生 1年		発達	
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報
個人情報	支援方法	個人情報	個人情報	個人情報	個人情報

A<sup>2</sup>【支援のための発達アセスメント】～5歳程度の発達段階用

【特別支援学校 学習指導要領】

小学館1年版  
小学館2年版  
小学館3年版

※ この中の設定内容は、要領内と異なる場合があります。あくまで目安としてご利用ください。



# 【様式2】へ戻る

- 得意凸と課題凹を選択

ここを一回クリックすると、  
右上に選択ボタンが出る

→選択する

空欄にしたいときは、選択肢の  
一番上または下の空欄をクリック



理解シートや諸検査からわかる  
得意なところ・課題なところ(チャートの凸と凹)

得意凸 (指導に活かす・申ばす)	<ul style="list-style-type: none"><li>学習意欲・書き・数算</li><li>対人関係</li><li>[注意・行動]</li><li>情緒(不安・感情)・行動</li><li>生活動作(身辺自立・運動・作業)</li></ul>	[注意・行動]
課題凹 (支援の検討)	[生活動作] 身辺自立・運動・作業	

理解シートも表紙に印刷  
※ モデルのリストから選ぶ

# 【様式2】 実態把握を記入

実態把握		書き方例	長期目標	合理的配慮な
諸検査の記録	[自己調整と社会性] 情動・行動 対人関係			
支援のための発達アセスメント				
作成	[ことば] 理解言語・ 表出言語			
	[学習] 読み・書き 数量			
アセスメントシートや諸検査からわかる 得意・課題 (チャートの凸と凹)				
得意凸 支援に活かす ・伸ばす	[生活動作] 運動・作業 身辺自立			
課題凹	その他			

• 箇条書き、簡潔に記入  
 • 書き方がわからない → 書き方例

参考資料

実態把握 書き方の例

地域生活・社会参加の様子・課題 例) 大人と一緒に地域のお祭りに参加している	地域生活・社会参加の様子・課題 例) 地域のお祭りに参加している 少年野球チームに所属している
---	---

中学・高校  
「地域生活・社会参加」は下方枠内

就学前発達段階(～5歳)		小学校発達段階(6歳～12歳)		中学校・高校発達段階(13歳～)	
【ことば】 聞く・話す	例) ・はじめて話す 「ん、ん」と言いがけず無言で伝える ・ことばで呼びかける代わりに突然相手の手を引っ張る	【ことば】 聞く・話す	例) ・家族や親しい人との日常会話に両意にできる ・話の話題に関連する単語を専断に話したことが多い ・相手だけで話し相手に伝えることが苦手 ・話題が少ない	学習           自己調整と社会性           地域生活・社会参加	例) ・ことばの知識は豊富であるが、意味理解が表面的である ・数学に課題があり、複雑計算の習得ができていない ・読み書きが苦手、英語の習得が難しい ・家庭では両意にコミュニケーションが取れるが、学校でことばを発することが難しい。
【学習活動】 あそび	例) ・向を歩くことができる ・大小を区別して遊ぶ事ができる ・電車を見るのが好き ・いつも決まったのびで走る	【学習活動】 あそび	例) ・文字を書くことに時間がかかるが読めなく丁寧に書くことができる ・漢字の読み書きが苦手 ・電車の図鑑を見るのが好き		
【対人関係】	例) ・大人との一対一のやり取りができる ・大人の仕事を覚える	【対人関係】	例) ・大人とのコミュニケーションが取れるが、友だちや集団の中ではうまくいかない、対人トラブルになることがある		
【注意・行動】	例) ・興味があるものを見つくと、突然走り出して走り出しへの集中が続かず、いろいろな玩具で次々に遊ぶ ・友だちを叩く・突き引っ張ることがある	【注意・行動】	例) ・机やロッカーの中が散らかっている ・注意を集めるために、突然大声を出す ・遊ぶことができない		
【情緒面】 情緒・感情・行動	例) ・感情の起伏が激しく、怒ると大きな声で泣き出す ・1人になって泣く ・激しくおどきおどき音がある	【情緒面】 情緒・感情・行動	例) ・ちよとした声でかきつけてすぐに泣いてしまう、気持ちを切り替えるのに時間がかかる ・突然に大声を上げて怒り出すことがある ・友だちのちよとしたことばに、激しく感情的になる		
【生活動作】 身の自立・運動・衣食	例) ・トイレはおおむね自立しているが、大皿をよめる際に手助けが必要 ・履き替でこぼさずに食事をする	【生活動作】 身の自立・運動・衣食	例) ・トイレはおおむね自立しているが、大皿をよめる際に手助けが必要 ・履き替でこぼさずに食事をする		
その他 特記事項	例) ・口を大きく開くアウツのような症状が見られる	その他 特記事項	例) ・大きな集団が苦手、体育祭での奉命などの活動に参加することができない ・口を大きく開くアウツのような症状が見られる		

大皿食に引き寄せたい児童・特別に自立して  
例) ノビックを起す前のサインとして「悪い子」「出てたらいぬい」などの発言が見られる。

資料：実態把握  
書き方例

※ここに書かれた  
通りの表現で書く  
必要はありません

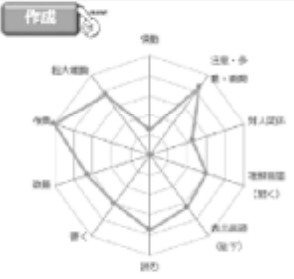
# 【様式2】 実態・目標・支援方法を検討

横の関連性を大切に

参考資料

合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(実態把握レーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの課題・指導場面から検討)

実態把握		書き方	長期目標	合理的配慮などの支援方法	評価
諸検査の記録	[自己観察と社会性] 情緒・行動 対人関係				
支援のための発達アセスメント					
作成 	[ことば] 知覚覚悟・ 表出覚悟				
	[学習] 動機・意欲 欲求				
アセスメントシートや観察量からわかる 得意・課題 (チャートの凸と凹)					
得意凸 克服に活かす ・伸ばす	[生活動作] 運動・作業 身辺自立				
課題凹 克服の様子	その他 特記事項				

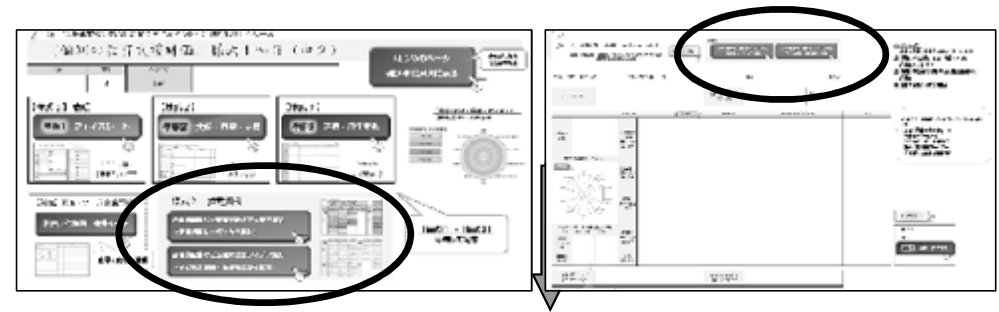
合理的配慮など、  
支援方法アイディア  
(参考資料)

A<sup>2</sup>

# 表の見方

縦軸 (指導場面)

横軸 (特性) で見る



**① 合理的配慮など支援方法アイデアリスト (実態把握レーダーから)**

参考: ( ) 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に  
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingli/chukyoyo/chukyoyo](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingli/chukyoyo/chukyoyo)

関連項目の色分け	集団参加、感情コントロール 攻撃性など、情動面	衝動的に行動する
	大きい画面	集団参加
	情動 (感情・行動)	注意・多動
<b>1. 学校生活全般</b>	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む (ID-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (ID-1-1)
<b>心理面</b>	対人関係や円滑なコミュニケーションをとるための指導として、ソーシャルスキルの指導を行う (ID-1-1)	安定できる座席を工夫する (ID-1-1)
<b>集団参加</b>	不適切な発言を助長させないようにするために、不適切な発言に対しては反応を控える (ID-1-1)	理解覚悟ができていないが気づけるように自分でチェックできるようにする (チェック票の活用等) (ID-1-1)
<b>対人関係</b>		
<b>コミュニケーション</b>		
<b>学習 など</b>		

**② 合理的配慮など支援方法アイデアリスト (子どもの課題・指導場面から)**

参考: ( ) 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に  
※本様式においては、合理的配慮の観点について明確  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingli/chukyoyo/chukyoyo](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingli/chukyoyo/chukyoyo)

**診断名・行動特性**

課題	【情動面の課題】 大きい画面にする	【ADHD症状】 大きい画面にする
	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、情動面	落ち着きがない・注意が持続しな 衝動的な行動・片付けに課題
<b>1. 学校生活全般</b>	集団への様々な参加方法を認める。(教室の中に入ることにこだわらずに) (ID-1-1)	指示や注意すべきポイントが明確に伝わらな り方や指示を目の前で促す。やり方の 異なる (ID-1-1)
<b>心理面</b>	5人以下の少人数の集団から徐々に大きい集団に参加できるようにする (ID-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (ID-1-1)
<b>集団参加</b>	生徒にわかりやすい、具体的に明確な話す際のルールを作る (ID-1-1)	安定できる座席を工夫する (ID-1-1)
<b>対人関係</b>	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を日々のルーティンの中に組み込む (ID-1-1)	教室の縁がしきから離れ、休憩をしたいと告 げることができるスペースを設ける (ID-1-1)
<b>コミュニケーション</b>		

A<sup>2</sup>

# 参考資料 から【様式2】へ戻る

- 所属学年（横軸）と発達段階を選択、トップページへ戻る

**① 合理的配慮など支援方法アイデアリスト (実態把握レーダーから)**

参考：① 合理的配慮の観点 子どもの実態・状況に応じてご検討ください  
 ※本様式においては、合理的配慮の観点について明確にする必要はありません  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingyochuikyochuikyos3/046/onyo/attach/1314384.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingyochuikyochuikyos3/046/onyo/attach/1314384.htm)

【様式2】 目標・実態把握・支援方法のページに戻る						
～5歳 (就学前の発達段階)	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生 発達の発達段階	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 発達の発達段階	中1	中2	中3	高1	高2	高3

関連項目の色分け	集団参加、感情コントロールの課題 攻撃性など、持参画	落ち着きがない・注意が持続しない・ 衝動的に行動する	社会やりの課題 ・対人トラブルなど対人関係
	大きい画面 情動 (感情・行動)	大きい画面 注意・多動	対人関係
<b>1. 学校生活全般</b> <b>心理面</b> <b>集団参加</b> <b>対人関係</b>	落ち着いたり、リラックスできる休憩時間を 日々のルーティンの中に組み込む (00-1-1)	グループで活動する時のルールを明確にする (00-1-1)	教室の騒がしさから静め、休憩をしたとき に行ける静かなスペースを設ける (00-1-2)

【様式2】 目標・実態把握・支援方法のページに戻る

このページは、合理的配慮など支援方法のアイデアリストから、具体的な支援方法を選択するためのページです。

1. 実態把握・実態把握の項目を選択  
2. 実態把握の結果、CAMで選択  
3. 実態把握の結果、CAMで選択  
4. 実態把握の結果、CAMで選択

このページは、合理的配慮など支援方法のアイデアリストから、具体的な支援方法を選択するためのページです。

1. 実態把握・実態把握の項目を選択  
2. 実態把握の結果、CAMで選択  
3. 実態把握の結果、CAMで選択  
4. 実態把握の結果、CAMで選択

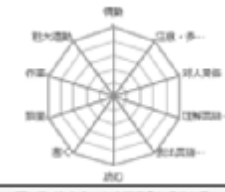


A<sup>2</sup>

# 評価と引継ぎ事項を検討

- 箇条書きで簡潔に書く
- どのような条件・セッティング（3人程度の少人数でなど）でできたのかを記入する

実施・目標・支援方法 \_\_\_\_\_ 中学部 1年 \_\_\_\_\_ (様式2)

本人(保護者)の思い		所属委員会/社会科活動 部活・課外		目的	目的
活動意図 目的		【内】に探究と 【社会科】 活動・行動 対人関係			評価
活動のための表現アセスメント		【このほ】 情報活用 表現活動			
シート作成 		【評価】 活動・内容 等価性			
アセスメントシートや評価書からわかる 結果・課題 (マヤートの心と頭)		【生活科】 活動・内容 等価性			
活動の 実施の状況 - 内容		その他 特記事項			
活動の 実施の状況 - 内容					
活動の 実施の状況 - 内容					
活動に活かしたい 成果・学びのこと		次年度に引き継ぎたい 活動・事項は等価性で			

# 【様式3】に評価・経年変化を確認

- 卒業時は、引継ぎ欄を記入
- 発達段階選択の変更があった場合は、コピペで手入力Ver.使用

【様式2】から自動的に反映  
基本はこちらを使用 →ファイルから印刷

Handwritten Ver.

手入力Ver.の印刷:  
印刷範囲をドラッグして選択→[ページレイアウト]  
印刷範囲の設定→印刷

手入力Ver.  
(必要に応じて)

手入力Ver.のみ  
印刷設定必要

## 【様式3】 手入力Ver.を使用・印刷する場合



①印刷範囲を選択

②ページレイアウト  
→印刷範囲の設定  
→ファイルから印刷

# 【様式1】～【様式3】を印刷 活用へ シートごとに印刷 ※一括印刷はできません


A<sup>2</sup>  学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

## 『個別の教育支援計画』様式1～3（中1）

年度	学年	ふりがな	
	1	名前	

**【様式1】表紙**


**手順1 フェイスシート**



2年目以降は  
変更箇所の訂正

**【様式2】**


**手順2 実態・目標・支援**



様式3に  
自動で反映

**【様式3】**

**手順3 評価・経年変化**

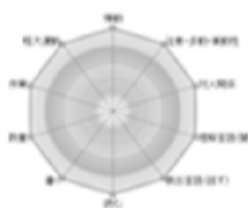


※卒業時  
記入欄あり

はじめのページ  
発達年齢選択に戻る


まちがったら  
ここから戻る

『支援のための発達アセスメント』  
【様式2】から入れ替えます



**【付録】 支援・ケース会議等用**

**校内/他機関 連携シート**




必要に応じて活用

**様式2 参考資料**

合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(実態把握レーダーから検討)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの課題・指導場面から検討)



**【様式1】～【様式3】  
印刷して完成**

# もしページを間違ったら・・・

A<sup>2</sup> 【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』様式1～3 (中1)

はじめのページ  
発達年齢選択に戻る

【様式1】表紙  
学期1 フェイスシート  
2年以降用は  
変更箇所のみ訂正

【様式2】  
学期2 実態・目標・支援  
様式3に  
自動で転写

【様式3】  
学期3 評価・経年変化  
※印刷時  
記入箇所あり

【付録】支援・ケース会議等用  
校内/他機関 連携シート  
必要に応じて活用

様式2 参考資料  
合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(保護者層・レジャーから採択)

合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの経験・指導場面から採択)

どの年齢のトップページでもOK!  
このボタンがあります

## 幼稚園・保育園

## 小学校・特別支援学校 (小学部)

## 中学・高校

## 特別支援学校 (中学・高等部)

A<sup>2</sup> 【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』幼稚園・保育園

はじめに 該当する をクリック

幼稚園  
保育園

3歳児クラス  
4歳児クラス  
5歳児クラス

【備考】  
1. 児童1名1人につき1ファイルでご登録ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

A<sup>2</sup> 【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』小学校・支援学校 (小学部)

はじめに 該当する をクリック

1～5歳児  
6～7歳児  
8～9歳児  
10～11歳児  
12～13歳児

コミュニケーション・発達  
実態を本人の特性に  
照らし合わせて  
設定が可能です

内蔵コミュニケーション  
機能の活用が可能です

【備考】  
1. 児童1名1人につき1ファイルでご登録ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

A<sup>2</sup> 【新学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ

『個別の教育支援計画』中学・高校・支援学校 (中学・高等部)

はじめに 該当する をクリック

1～3学期  
4～5学期  
6～7学期  
8～9学期  
10～11学期  
12～13学期

コミュニケーション・発達  
実態を本人の特性に  
照らし合わせて  
設定が可能です

内蔵コミュニケーション  
機能の活用が可能です

主要な学習内容に  
照らし合わせて  
設定が可能です

【備考】  
1. 児童1名1人につき1ファイルでご登録ください 2. プリントアウトはA4用紙を「横」でお使いください

# 【付録】 校内／他機関連携シート

- 校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

ここをクリック

学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ  
『個別の教育支援計画』様式1～3 (中1)

学年	学年	ふりがな	
	1	名前	

はじめのページ  
発達年齢選択に戻る

【様式1】表紙  
手順1 フェイスシート  
2年目以降は  
変更箇所のみ訂正

【様式2】  
手順2 実態・目標・支援  
様式3に  
自動で反映

【様式3】  
手順3 評価・経年変化  
※卒業時  
記入箇所あり

「支援のための発達アセスメント」  
【様式2】から入れ替えます

【付録】支援・ケース会議等用  
校内／他機関 連携シート  
必要に応じて活用

様式2 参考資料  
合理的配慮など支援方法のアイデア集①  
(実態把握レーダーから検討)  
合理的配慮など支援方法のアイデア集②  
(子どもの課題・指導場面から検討)

【様式1】～【様式3】  
印刷して完成

# 【付録】 校内／他機関連携シート

校内体制・ケース会議・他機関連携などで活用

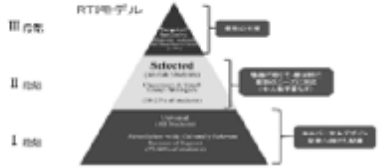
## 1. 支援ニーズシートの作成

校内体制・他機関との連携シート				記録				
名前	記入者			関係機関等	引き継ぎ事項			
	個別の支援計画							
作成	支援ニーズ			入学期	記録			
	 <p>学校内・外部 連携</p> <p>学校内・外部 連携</p> <p>学校内・外部 連携</p> <p>学校内・外部 連携</p> <p>学校内・外部 連携</p>							個別の支援計画 記入・管理
	個別の支援計画 記入・管理	個別の支援計画 記入・管理	個別の支援計画 記入・管理					個別の支援計画 記入・管理
校内体制・各機関の役割・支援内容				学年	日時	組織・機関等	記録	
校内・組織・機関名				個別の支援計画	個別の支援計画	個別の支援計画	個別の支援計画	
役割・支援内容等								

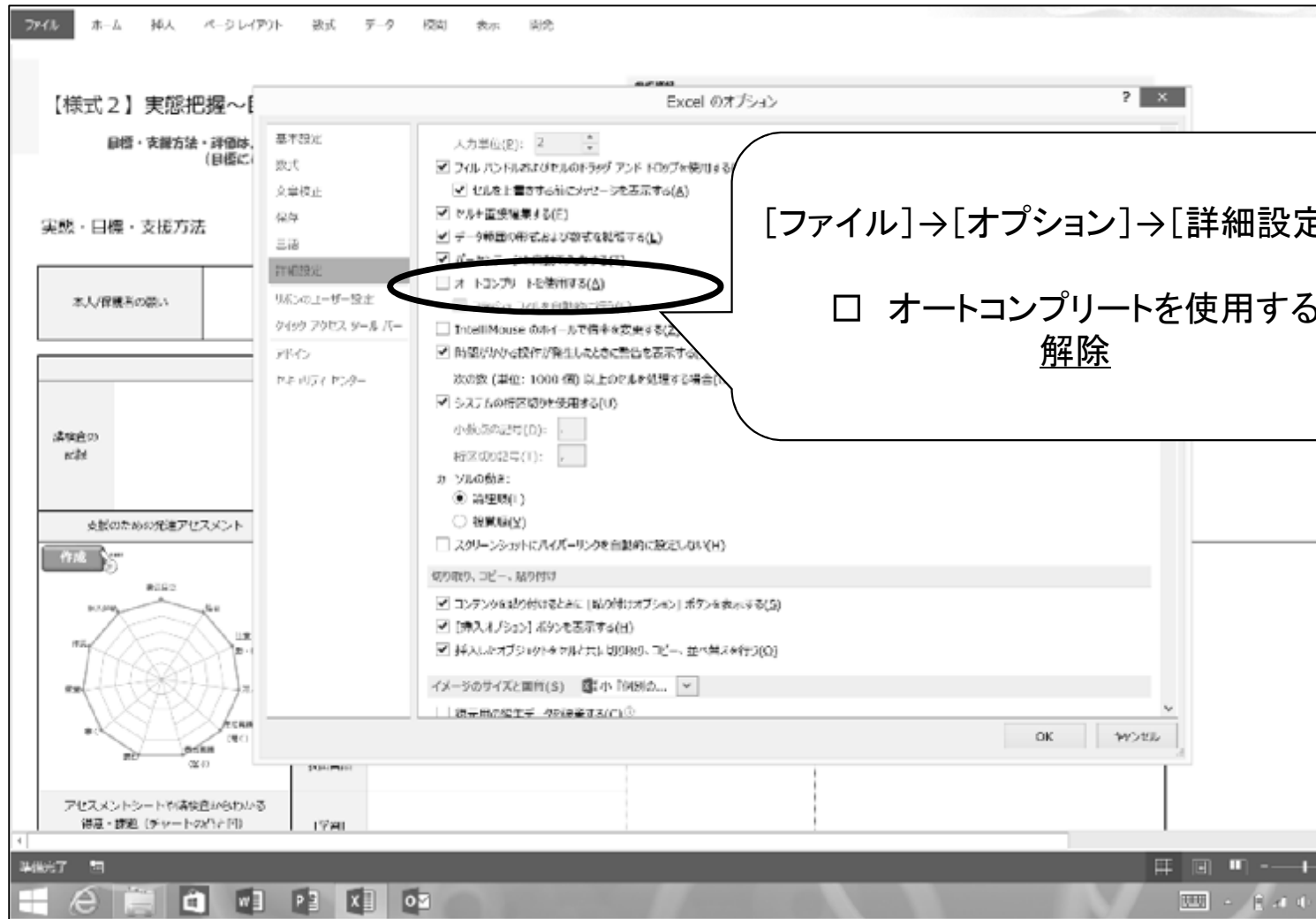
ここをクリック

支援ニーズ

支援ニーズ	必要性	重要性	優先度	対応状況
① 学習支援・個別化	○	○	○	★
② 生活調整と生活力（行動・情緒・社会関係）	○	○	○	★
③ コミュニケーション・発達	○	○	○	★
④ 生活管理（服薬・食生活・睡眠など）・おたがひ	○	○	○	★



# その他 Excelの予測変換機能を解除したいとき





# 編集一覧

A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツール Ver. 1.2 (2021.1)

大阪府教育委員会 支援教育地域支援整備事業

監修	佐藤 克敏 (京都教育大学教授)
	渡辺 実 (花園大学教授)
	南 晃二 (大阪府立住之江支援学校校長)
アドバイザー	Victoria Tarango (LADC教授)
編集	大阪府立支援学校リーディングスタッフ (小委員会含む) A <sup>2</sup> 窓口：岩山カイナ
協力	大阪府立支援学校 大阪市内幼稚園・小中学校・高等学校

### 3. 「個別の教育支援計画」以外の活用

① 個別相談用資料（地域の学校園との連携）

② カリキュラムマネジメント

（大阪府立住之江支援学校の例）



# ① 個別相談用【支援プラン】 ※『個別の教育支援計画』以外の様式 A<sup>2</sup>

A<sup>2</sup>【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ ご意見・ご質問: T-twayamak@medu.pref.osaka.jp

## 『個別相談用』支援プラン

校種選択

幼稚園・保育園

小学校・中学校・高校

【情報記入シート】

Interview

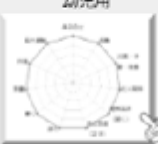
※プリントアウト  
戻後・書き取り時のメモとして活用

- 【使用方法】
1. 学校種ごとのファイルです。複数の子どもについて1つのファイル内で作成できます
  2. プリントアウトはA4用紙を『横』でお使いください
  3. 該当する枠をクリックしながらお読みください

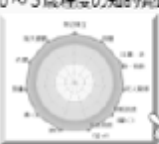
A<sup>2</sup> アセスメント・支援アイデアリストのみを使用する↓

【支援のための発達アセスメント】

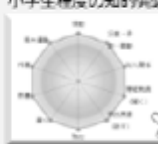
幼稚園・保育園  
幼児用



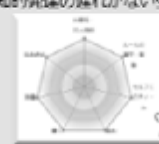
小学校（部）～高校（部）  
0～5歳程度の知的発達



小学校（部）～高校（部）  
小学生程度の知的発達




中学校（部）・高校（部）  
知的発達の遅れがない生徒




【合理的配慮など支援方法アイデアリスト】

①アセスメントレーダー・指導場面より



②診断名・子どもの課題・指導場面より

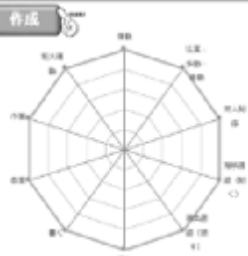


アセスメントの結果に沿って、合理的配慮などの支援アイデアが整理されています。レーダーの色の部分へ配慮を行うなど、アセスメント結果から検討を行うのに便利です。

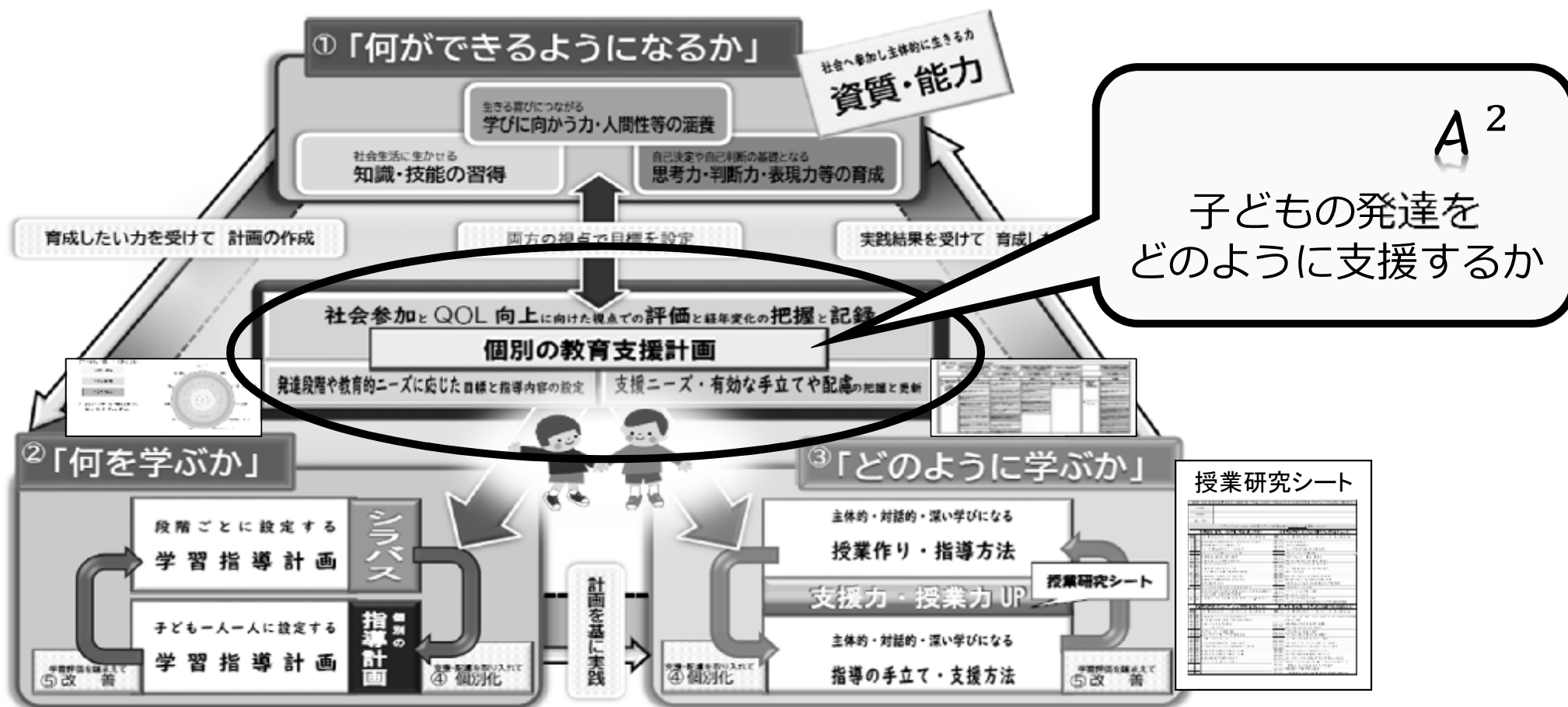
診断名や、障害状態などの子どもの状態・課題に沿って、合理的配慮などの支援アイデアが整理されています。診断名から検討を行うのに便利です。

## • 主訴に基づく実態把握と支援方法の提案

支援プラン 〇〇学校 Aさん 作成: 日付:

主訴	個別の支援計画
実態把握	合理的配慮などの支援方法
<p>所在地等の記載</p> <p>支援のための発達アセスメント</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>アセスメントシートの特徴等からわかる 得意・課題（チャートの△と□）</p> <p>得意△ 克服に需かす・弱びす</p> <p>課題□ 支援の検討</p>	<p>【自己調整と社会性】 感情・行動 対人関係</p> <p>【ことば】 理解言語・ 表出言語</p> <p>【学習】 読み・算数 数量</p> <p>【生活動作】 運動・作業 社会自立</p> <p>その他 特記事項</p>

## ② カリキュラムマネジメント (住之江支援学校の実践例)



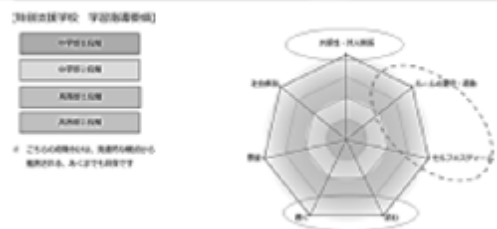
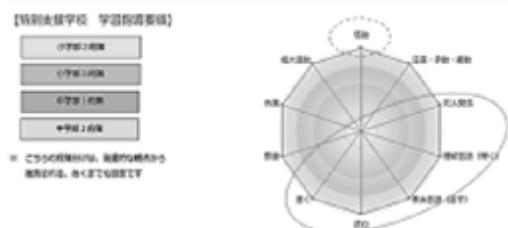
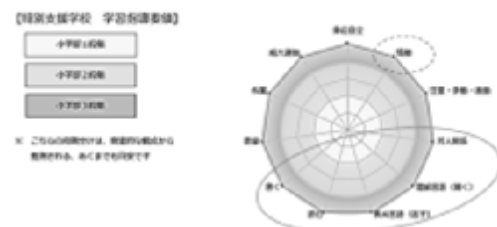
# カリキュラムマネジメントへのA<sup>2</sup>の活用

## ・教科ごと、個別の学習指導要領 段階判定

### 国語

- ・理解言語 [聞く]
- ・表出言語 [話す]
- ・読む
- ・書く
- ・対人関係
- ・(情動)

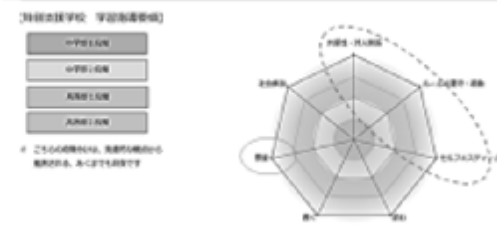
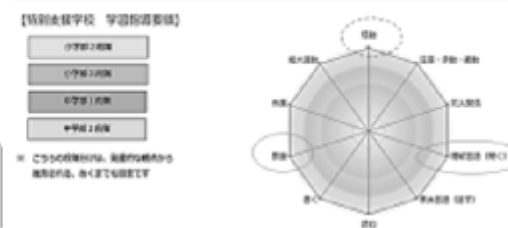
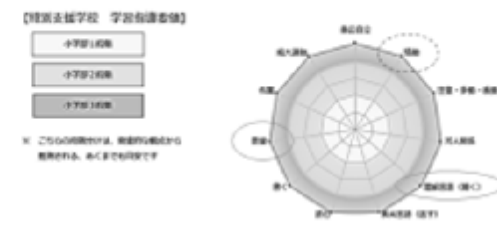
参考にしたい発達領域は  
これ！



### 算数・数学

- ・理解言語 [聞く]
- ・数量
- ・(情動)

参考にしたい発達領域は  
これ！



エーツ-

# A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツールの活用

活用例	内容
①「個別の教育支援計画」 様式としての活用	実態把握／引継ぎ／連携／共通理解
②個別相談用【支援プラン】	アセスメント（実態把握）と 合理的配慮など支援方法の提案
③カリキュラムマネジメントへの活用	A <sup>2</sup> アセスメントを使用した、 学習指導要領の段階判定
④自立活動の実態把握	個別の指導計画への反映

# ダウンロード先・お問い合わせ A<sup>2</sup>『個別の教育支援計画』ツール



- ・ インターネットからダウンロードされる場合  
⇒大阪府立住之江支援学校HP

**<https://www2.osaka-c.ed.jp/suminoe-s/a/>**

- ・ お問い合わせ：**[T-IwayamaK@medu.pref.odsk.s.jp](mailto:T-IwayamaK@medu.pref.odsk.s.jp)**

(大阪府立住之江支援学校 岩山カイナ)

または大阪市内支援学校 (リーディングスタッフ) まで